

キャン ドウ

CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)会報 2015年6月[第71号]



活動の方向性	地域保健ボランティア育成における県保健局との協働	永岡 宏昌
ナイロビ便り	ナイロビの日本料理店	泉田 恵子
ひと	新スタッフの自己紹介	今村 純子
	ナイロビ事務所のインターンを終えて	築地 美津子
	インターンを終えて	高畑 晃
		濱野 聖菜
		内田 あす香

ケニアでの活動 2015年1月～5月

フォト・レポート マチャコス地方マシंगा県での小学校の施設拡充

国内 2015年度年次総会の報告

事務局から

左の写真: 倒壊の危険性があり、取り壊した教室
右の写真: 教室建設のレンガ焼成で薪にするため、境界に植えていたユーフォルビアを切り倒す保護者たち

活動の方向性

地域保健ボランティア(CHW)育成における県保健局との協働

代表理事 永岡 宏昌

1年前、会報第67号で地域保健ボランティア(CHW)の育成準備について報告しました。この中で、政府の地域保健戦略(CHS)に沿ったCHWの保健活動の意義を住民が理解すること。そして、副次的利益にとらわれずに、CHW育成研修を修了し、地域での活動を地道に自律的に実践することが重要だと強調しました。今号では県保健局との協働について考えます。

県保健局は、住民からCHWを選抜・育成し、組織化し、CHSで決められた保健活動を展開することを、上位機関から求められています。しかし、CHW研修のための諸経費や、記録簿など基本ツールを購入する予算がありません。また、地域でCHSを担当する地域保健普及官(CHEW)は、診療所の看護官や公衆衛生技官(PHT)が兼任し、本来業務に加えて、CHWの育成・監督をすることになります。援助機関やNGOなどのドナーが、諸経費を負担しないと研修が始まらず、ツールを印刷しないと保健活動が始まりません。

県保健局は、当会と協働することでCHWへの補助なし(Zero Subsidy)で保健活動の活性化をめざす一方、基本ツールから追加的な器具・備品まで「買い物リスト」を作って、当会へも支援を求めてきました。また、県保

健局のスタッフは当会からの手当を期待しました。当会は県保健局と相談し、次のように合意しました。他の行政機関と協力し、研修会場は地域からの貢献として、無償で確保すること。保健活動を展開するために最低限必要なモノを見極めること。保健局スタッフに支給する副次的利益を、研修で講師となる場合の手当に限定すること。

一方、CHWの組織化、活性化にCHEWがどのように貢献するか—当会との活動を通して県保健局に理解を深めてもらっています。地域リーダーとの話し合いから、CHW候補選抜のための村訪問、CHW育成研修、その一部を欠席した人への補習、修了後の保健活動への熱心な関与によってCHWと良好な関係をつくること、などいろいろあります。CHEWにとっては、手当がない中で多大な業務が発生することになります。CHSの意義を理解して熱心に取り組む人もいれば、手当がないことは行わない人、CHWへ教えることに関心なく、診療所の草刈り要員としか思っていないような人もいます。当会の役割は、県保健局自体もスタッフであるCHEWも、副次的利益にとらわれずにCHSの実現に向けて、内発的な動機を高めるよう、協働して工夫することだと考えています。

ナイロビ便り

ナイロビの日本料理店

調整員 泉田 恵子

ナイロビ市内には、ローカル・フードはもちろん、コーヒー・ショップやファストフードといったチェーン店から世界各国の料理まで、飲食店の種類も価格も数多くの選択肢があります。さすがは東アフリカの大都市だとつくづく感心させられます。中国、韓国、タイ、インド、イタリア、フランス、レバノン、エチオピア—日替わりで各国の料理を味わうことも可能です。

日本料理も例外ではありません。ただ、日本人経営の店はすべてなくなってしまい、韓国人経営ばかり、と聞いていました。けれども、最近、日本人経営の店が増えているようです。残念ながら今のところ、訪れる機会には恵まれていないのですが、昼時にオープンしたばかりの店の前を通り過ぎたことがあります。店の外まで行列ができていて、多くのケニア人、外国人—日本人以外のアジア人、欧米人—が我慢強く待っています。日本と同様、不織布の衛生帽とプラスチックの手袋を身に着けたケニア人スタッフが、カウンター越しに調理を行ない、食事を提供していて、通常のケニアの店とはかなり異なる印象でした。

日本料理というと、個人的にはやはり寿司・刺身を最初に思い浮かべます。ケニア人

は生の魚介類を食べるのか—これが以前より持っていた疑問です。周囲のケニア人に尋ねてみると、そもそも魚を食べること自体が珍しく、生の魚介類を食べることにいたっては拒否反応を示す人が多いというのが実感でした。そのため、日本料理店は外国人向けなのだろうとばかり思い込んでいました。

つい先日訪れた、韓国人経営の日本食レストランでは、外国人と裕福な層とおぼしきケニア人が半々くらいでした。ケニア人の間でも、日本料理は一定の認知度と人気を得ていると感じました。この店では、寿司、刺身、てんぷら、鉄板焼き等の「日本食」をひととおり味わうことができます。オーナーは日本に滞在歴があり、料理はかなり質が高く、料金も非常に良心的でした。食事を終えあらためて、新規オープン日本料理店が、これらの韓国資本の店舗と競わなければならないことに、他人事とはいえない心配になってしまいました。質と値段のバランスをとり、それでいて客の心をつかむとなると、かなりの努力が必要であることは想像に難くありません。しかし、やはり異国の地で同じ日本人が活躍しているのはうれしいものです。次こそは日本人経営の店を訪れようともろんでいる今日この頃です。

ひと 新スタッフの自己紹介

調整員 今村 純子

私は2014年6月から1か月、インターンとして東京事務所研修・勤務した後、7月、ケニアに派遣され、11月からは短期調整員として仕事をしました。施設拡充・環境活動、および調整員の西岡さんの一時帰国中は管理関係の仕事に携りました。2015年1月に帰国し、東京事務所の管理関係の業務の補佐を行ないました。

5月に調整員としてケニアに戻り、施設拡充・環境を担当し、話し合いや研修に参加しています。行政官、校長・教頭、保護者、ケニ

ア人スタッフ、と立場が異なった多くの関係者と協力し、時間と共に変わりゆく状況も考えながら、最善の策を選び活動を進めていくことに奮闘する毎日です。

さまざまな経験をする中で、どのような判断が適切だったのか考えてもわからないことも多くありますが、現状を冷静にとらえ、論理的な判断を積み重ねることの大切さを知りました。これからも私に出来ることを少しずつ増やしながらか、活動に貢献できるように頑張りたいと思います。

ひと ナイロビ事務所のインターンを終えて

築地 美津子

国際協力に興味を持ってナイロビへ移り住んで7年、いろいろな支援団体を見たりボランティアとして活動するうち、さまざまな疑問を感じたり困難な問題を数多く経験しました。本来の事業での問題はもちろん、人事や資金、組織作りといった内部的な面に悩ませる日々。そんな中、CanDoのインターン募集を知り、事業地ではなくナイロビ事務所での研修を相談してみました。

援助受給者とみてきた住民が主体となる開発協力はどのように行なわれているのか、外務省などの公的資金による事業の成り立

ちやマネージメントなどについて学ぶことも、インターンの目的でもありました。ナイロビの自宅から通いでナイロビ事務所の管理業務の補佐として、2014年2月から6月の5か月間にわたって参加しました。

インターン開始時から行なわれるオリエンテーション、ゆるぎない理念に基づく組織の統率と事業形成、緻密なデータ収集と資金計画。どれも多くのNGOが不得手とすると思われる要素を確実におさえたCanDoの活動を知ることができ、大変有意義で勉強になりました。

ひと インターンを終えて

「教室を造る」ことが目的の不満が、活動を通して「持続性」の観点の学びに
高畑 晃

私は、2014年10月から約半年間インターンとして、教室建設・補修を担当しました。

CanDoの業務は、毎日が勉強で葛藤の日々でもありました。例えば、住民の事業への参加率の低さや予想外のトラブルが原因で、作業が進まないと、私自身ジレンマや不満を感じる事が多々ありました。しかし、CanDoの活動を通して、ジレンマや不満を感じるの、「教室を造る」ことが目的になっており、「持続性」の観点から、教室建設・補修の過程で、いかに技術・知識の移転や社

会的能力向上が重要かを学びました。

同時に、現在、国際協力や開発に関わる組織でも、「いくら融資したか」や「いくつ建物を建てたか」等が主な目的になっていると感じました。成果として示しやすく寄付金を集めやすいからなのでしょう。過程の部分があまり重要視されていないのではないか、と思いました。

将来的に国際機関での仕事を志す者として、今後CanDoでの経験を生かしていきたいです。

CHW研修の参加者から教えられたこと

濱野 聖菜

私は、10月中旬～3月上旬まで、地域保健の担当として、CHW研修に携わりました。知識の押しつけではなく、本当に地域の住民のためになること・住民が再現し維持していくことのできる形は何なのかを、スタッフと共に考え、それを軌道修正していただくといった過程の中で、自分の考えが浅かったことを知り、同時に大変学びになりました。研修では、参加者に交通費もお小遣いも提供しませんでした。ほとんどのCHW候補者が約1か月にわたる研修をやり遂げました。時には診療所の看護官から、参加者に金銭の補

助を与えないCanDoのやり方に不満を投げられ、戸惑ったこともありましたが、それでも参加者たちが知識を吸収しようと主体的に研修に取り組む姿をみて、間違っていないのだと参加者から教えられました。

現在、休学していた大学に戻り、病院で実習を行なっています。全てが揃った日本の医療にケニアとのギャップを感じるなど、インターンの経験があったからこそ見ることで世界がたくさんあります。今後は医療者として国際協力に関われることを目指して、まずは日本で精進していくつもりです。

機会があれば「担当事業」だけでなく「地域開発」を

内田 あす香

社会経験の無い大学生の私が、今回のようなインターンに参加する機会をいただき、事業に関われたことに感謝しています。そして、この稀有な経験をこれからも思い出し、「国際開発」について考え続けることと思えます。

昨年10月から半年間で出会った人びとから教えられた気づきと学びが多くありました。私が関わった人々は、インターン開始から終了時までの間には入れ替わり、スタッフの方々はじめさまざまな人々にお世話になり、

さまざまな分野のことを学ぶことができました。事業地の人々から、生きる上でのたくましさや強かさを見て取り、大変興味深いことでした。

3月までの環境活動に関わった経験から私は多くのことを学びましたが、私はあまりにも視野が狭すぎました。次に関わる機会があれば、自分自身の「担当事業」だけでなく「地域開発」に携わることができるよう努力したいと思います。貴重な経験をさせていただいたCanDoの皆様に感謝いたします。

ケニアでの活動

—2015年1～5月

■ マチャコス地方マシंगा県

◆ 小学校

◇ 保護者の学校運営能力向上と施設拡充— 教室建設・構造補修・土留め壁建設—および 保護者による環境活動

・2014年度に始めた2校で土留め壁が完成。うち1校は構造補修に入り、2校で補修を継続。3校で土留め壁、2校で構造補修、2校で建設を始め、うち4校は作業に入りました。

・3校で環境活動の研修を実施しました。

◇ 教員へのエイズ教育研修

・3校で、エイズ教育研修第1課程を修了した教員による公開授業が行なわれました。

・エイズ教育研修・第2課程(低学年への教授法)を2教育区で実施しました(2日間)。

◆ 幼稚園

◇ 教師への保健・エイズ研修

・保健・エイズ研修(実践編)の実施の前に、関係者への研修を行ないました。

◆ 地域

◇ 地域保健ボランティア(CHW)育成

・イーア二準区でCHW研修(4週間)。

・2014年に研修を修了した、ムクス準区のCHWにエイズ研修(3日間)。

・エカラカラ準区の各村の住民集会で、CHW候補選出について説明しています。

フォト・レポート

マチャコス地方マシंगा県における小学校の施設拡充



上左の写真は、教室の前面で、右は背面。背面の基礎周りの土壌が大量に流出。長く続いていたようで、出入口に階段を作った跡。校長・職員室の新築にあわせて、出入口は反対側に。土留め壁の建設から始めます。

下の写真は、2月に教室の屋根が風で飛ばされた小学校。5月、保護者は屋根のトタンを取り外して、隣に仮設の教室を作り、当会との教室補修にむけて資材の収集も行なっていました。補修作業に入れそうです。



国内

3月29日、2015年度年次総会を開催しました

3月29日、不忍通りふれあい館で2015年度年次総会を開催しました。

一般会員33人(うち書面表決4人、表決委任者22人)、賛助会員1人が出席し、定足数(一般会員62人の3分の1以上)を満たして成立。今村純子が議長を務めて、2014年度活動報告・会計報告、2015年度活動計画・

予算、定款の修正—第4章 会議(総会の機能)第22条における数字の重複—が審議され、承認されました。

お詫びと訂正 会報70号 p.11 <スタッフ>で以下の記載が抜けていたことをお詫びします。
調整員:今村純子(11月～)/インターン:岩崎敏実(~6月)、今村純子(7~10月)/日本—インターン:今村純子(6~7月)

事務局から

報告

◇組織

○3月29日、2015年度第1回理事会、および2015年度総会を開催しました(p.7参照)。
○5月20日、独立行政法人国際協力機構(JICA)草の根技術協力事業として、2009年～2012年、ムインギ東県で教室建設を行なった小学校のうち3校を会計検査院が検査。

◇支援

○3月5日、在ケニア日本大使と日本NGO連携無償「マシガ準郡*子どもの健康と安全を保障する学校地域社会の改善事業」(3年事業1年目)(供与限度額:282,386米ドル)を締結。*CanDoは「県」を使用。

人の動き *派遣・出張先はケニア

○3月4日に花井香奈子、安増小絵をインターンとして派遣。

○3月13日に濱野聖菜、20日高畑晃、25日内田あす香がインターンを終了して帰国。

○3月26日、代表理事 永岡宏昌が出張から帰国。

○4月14日、松岡由真をインターンとして派遣。

○5月8日、今村純子を調整員として再派遣。

○5月14日～26日、永岡が出張。

お知らせ

■CanDo勉強会2015・東京<全6回>

6月3日から毎水曜日に開催しています。

・時間: 19:00～21:00

・会場: 不忍通りふれあい館

・参加費(資料代): 500円、会員は無料

・これからの開催日とテーマ(いずれもカンバ地域を扱います): 6月24日-第4回:生活と環境問題、小学校での活動/7月1日-第5回:健康問題、地域保健ボランティア育成/7月8日-第6回:小学校でのエイズ教育・早期性交渉予防研修

■次号は、2015年9月に発行の予定です。

CanDo アフリカ [第71号]

2015年6月22日発行

発行人: 永岡宏昌

編集人: 佐久間典子

発行: 特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)
〒110-0001 東京都台東区谷中2-9-14 第2森川ビル B号室

電話/FAX: 03-3822-1041

電子メール: tokyo@cando.or.jp

ウェブサイト: <http://www.cando.or.jp/>

郵便振替: 口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会